

神奈川県教育委員会教育長 殿

県立 弥栄 高等学校 校長

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 教育課程の工夫・改善を継続的に行いながら、単位制専門学科である本校の特色を活かした専門性の高い教育内容を提供する。	<p>① 新学習指導要領の完成年度に向けて、教育課程の見直しを継続的に行い、本校の生徒に最適化したカリキュラムを目指す。大学・研究機関との連携及び特別講師の招聘などをさらに推進し、その成果を日常の教育活動に定着させていく。</p> <p>② 生徒の主体性をさらに伸ばさせ、本校の教育方針である TOP 教育 (Thinking Organization Presentation「考えをめぐらせ、知識を組み立て、それをきちんと伝えることのできる能力を育てる教育」) の推進に向け、各学科の指導や行事における課題を明らかにし、改善するための PDCA サイクルを確立する。海外姉妹校交流や研修旅行などの内容をさらに深化させるとともに、国際交流の取組を発展させる。</p> <p>③ 海外姉妹校交流や研修旅行などの内容をさらに深化させるとともに、国際交流の取組を発展させる。</p>	<p>① 生徒一人ひとりの学習ニーズを満たすとともに発展的な学力の育成が可能となる教育課程が編成できたか。また、外部教育機関及び外部人材を十分に活用するとともに、その成果を踏まえて日常の教育活動の質的向上を実現することができたか。</p> <p>② 学力やコミュニケーション能力など生徒の様々な能力の実態を正しく把握した上で課題を整理するとともに、能力向上に向けた具体的な手立てを確立できたか。また、課題の設定、指導の実施、成果の検証、新たな課題設定と手立ての確立の作業を年間計画に位置付けるとともに継続させる体制を整備することができたか。</p> <p>③ 豊かな国際性や高度な専門性の育成に向け、海外姉妹校交流及び研修旅行等の取組を深化させることにより、十分な成果をあげることができたか。</p>	<p>① ・進路保障と生徒のニーズを考慮して、教育課程の見直しを行った。 ・各学科とも外部講師を招聘し、専門性の高い学習の提供ができた。 ・2年次の課題研究では、理数科全生徒の研究発表ができた。また、つくばサイエンスエッジ 2015 の最終選考に選ばれ、科学者とのディスカッションができた。</p> <p>② ・各教科とも、生徒が主体的に話し合う場を設けたり、グループ活動による学習を通じて思考力・判断力・表現力を高める授業に取り組んだ。 ・各学科の発表会にむけてプレゼンテーションの機会を増やし、TOP 教育を推進した。 ・学科間の交流を通じて豊かな人間性を育む教育に取り組むとともに、学校行事や実技発表会を捉え、リーダーを育てる教育を積極的に行った。 ③ ・海外姉妹校交流や留学生の受け入れを通じて、豊かな国際性や高度な専門性を育む教育に取り組んだ。 ・ミャンマーの学校訪問を受け入れ、それぞれの文化の紹介やスポーツ交流を通じて、国際理解教育の推進を図った。</p>	<p>① ・教育環境の変化に対応した教育課程の見直しを定期的に行う。 ・外部講師の招聘や外部連携を日ごろの授業に生かせるよう取り組む。 ・2年次課題研究の取組がより充実したものとなり、理数に対する興味・関心がさらに高まるよう取り組む。</p> <p>② 各教科・学科の指導や計画を検証し、発表会や進路実現に結実させるよう取り組む。</p> <p>③ 各学科の姉妹校交流や研修会旅行の活動内容を生徒のアンケートなどに基づき、日程やプログラムなどを必要に応じて見直し、より質の高い国際理解教育を推進する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科発表などの様子から、日頃の取組や練習を重ねることで、子どもたちは自信を持ち、自己実現の喜びを感じている。このことが、将来への進路実現につながる。 ・国際科は全員が TOEIC を受験しているが、他学科も受験することは出来ないか。 ・いろいろな科目を選択できるように選択科目の設置を検討して欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4学科5専攻の設置、広い施設、充実した設備など他に比類のない特色を十分生かした教育が実践されている。 ・学科発表会や学校行事の成果が、進路状況にも反映している。 ・卒業生の特色づくりのアンケートから、各学科の課題が見えてくる。課題解決に向けた取組が、生徒の充実した学びにつながって行くものと考ええる。 	<p>(学校評価)</p> <p>①専門性の高い教育課程の編成のため、高大連携など外部機関との連携に努め、高度な学習活動を生徒に提供することができた。</p> <p>②各学科の発表会では、その事前準備から事後に至るまで、生徒が主体となって取り組み、TOP 教育の推進を図ることが十分にできた。</p> <p>③今までの取り組みをさらに進化させ、深い交流ができ異文化理解教育の推進ができた。(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学科の生徒と交流する機会を多く設定し、個性や価値観の異なる相手を理解し、自己も客観的に分析できる視野の広い、寛大な人間の育成を目指す。 ・TOP 教育の実現に向け、幅広い視野を持つスペシャリストの育成に向け、教育課程の継続的な見直しを行う。 ・外部機関との連携においては、本校の教育目標を補完するものと位置づけ、有意義な連携方法を開拓する。 ・海外姉妹校交流の相手校については生徒の関心・意欲を高められるような工夫を行う。

<p>2 生徒の状況を的確に把握し、個に応じた進路実現を支援するとともに、教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>① 入学時から積み重ねた各種データの分析を進めるとともに、様々な入試制度の研究を行い、全学科の生徒に対し適切な進路指導が行えるよう、教員研修を強化する。</p> <p>② 担任、教育相談コーディネーター、各学科に配属した教育相談担当者等による組織的な支援体制を活用し、早期の対応を確立する。また、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ対策等検討委員会」を中心に、いじめの防止を図る。</p>	<p>① 生徒に関する各種データを正しく分析するとともに、その結果を進路指導に適切に反映するための研修実施体制を構築し、実施することができたか。</p> <p>② 教育相談体制の充実に向け、生徒が抱える課題の早期発見・早期解決のための組織的な支援体制を整備するとともに、効果的に対応することができたか。また、いじめ防止に向け、安全・安心な学校生活を保障する体制を整備することができたか。</p>	<p>① ・生徒のよりの確な進路選択を図るために、各種のデータ分析を基に研修会を実施し、適切な進路指導を行った。</p> <p>② ・教育相談の判断により、適切なケース会議を開催し、生徒の状況の把握に努めた。</p> <p>・養護教諭・年次・学科・教科担当との協力体制により、課題解決に向けて組織的に取り組んだ。</p>	<p>① ・各教員の進路指導のスキルをあげるために、教員の研修会を継続して実施する。</p> <p>・各年次、各学科の進路指導の成果と課題が、次の年次に活かすことができるよう取り組む。</p> <p>② ・必要に応じて外部の専門機関と連携し、適切な時期にケース会議を開き、生徒にとって最善の方策を探る。</p> <p>③ 教育コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して、より充実した教育相談体制の構築を図る。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・子どもたちは、それぞれ学科の専門科目に興味・関心を持ち、意欲的に学んでいる。進路実現につながる受験科目においては、補習などを通じて、基礎学力や応用力を身に付けさせて欲しい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・各学科の専門科目の学習に取り組む中で、学習全般への意欲が高まっている。将来に対する具体的な目標が定まり、進路実現へ向けた取組ができています。</p> <p>・先生方の年次や学科の行事の運営方法が、生徒の人間関係の構築にうまく機能している。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>①データ分析を進めながら、生徒のよりの確な進路選択を図るための教員研修会を実施し、タイムリーな進路指導ができた。</p> <p>②生徒の状況に応じて、適切にケース会議を開催し、情報共有を進め、継続的な支援体制が確立できた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・蓄積したデータや進路指導のノウハウを職員全体が共有し、職員全体がチームとなって進路指導を行う。また、進路指導方針の年次間の引き継ぎも、より一層確実に行う。</p> <p>・生徒が抱える課題の早期発見・早期解決に向けて、適切な時期に三者面談等を行う。</p>
<p>3 本校の生徒に向けた授業の最適化をめざし、授業研究に努める。また、様々な学習機会の提供に努め、確かな学力の向上を図る。</p>	<p>① 予習復習や家庭学習の指導をはじめ補習・講習等可能な限りの支援を行い、学習習慣の確立と、確かな学力の向上を図る。学校と家庭での学習で進学希望が実現できるような体制を整える。</p> <p>② 90分授業の活用、言語活動の充実などをテーマとした授業研究を行い、本校の生徒に向けた授業の最適化を図る。授業の公開・教材の共有化を進め、各教科でより効果的な授業実践を探求する。</p>	<p>① 確かな学力の向上に向け、生徒一人ひとりの学習ニーズ及び希望する進路に対応したきめ細かな学習指導を、全教職員により適切に実施することができたか。また、その取組により生徒の学習習慣を確立させることができたか。</p> <p>② 授業の最適化に向け、教科としての目標を明確にした上で、教職員一人ひとりが90分授業を効果的に展開するとともに、生徒の言語活動を充実させることができたか。また、授業公開及び教材の共有化などを通じて、教科としての授業を推進することができたか。</p>	<p>① ・長期休業中の補習を計画的に実施し、生徒の参加を促し、生徒の進路希望や到達度に応じて、基礎学力の向上や進路実現に向けた支援を行った。</p> <p>・生徒の学習習慣の確立に向けた取組は行っているが、より一層家庭学習の充実に向けた取組を組織的に行う必要がある。</p> <p>② ・ICTの活用や言語活動、グループ学習などを取り入れ、効果的な90分授業の展開に取り組んだ。</p> <p>・公開授業やビデオによる研修会を行い、授業改善に向けて組織的に取り組んだ。</p>	<p>① ・生徒の進路希望や学習の到達度を把握し、生徒のニーズに応じた教科バランスの取れた補習計画を立てる。</p> <p>・教科としての課題の出し方、提出方法を統一し、生徒の学習習慣の確立に向けて組織的に取り組む。</p> <p>② ICTの活用や言語活動の充実、グループ活動を効果的に取り入れ、充実した90分授業の展開となるよう組織的に探求する。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・長期休業中に、学習習慣が確立できない生徒がいると思われる。学校で補習等を行っていただき、予備校に行かなくても学習習慣や基礎学力が身に付くよう取り組んで欲しい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・ビデオによる授業研修は良い取組である。継続して授業改善に取り組む、より良い授業づくりを組織として追求して欲しい。その結果、生徒による授業評価にプラスとなって反映される。</p> <p>・教員同士がお互いの授業を公開し、指導方法や内容の情報交換を積極的に行って欲しい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>①機会ある毎に補習・講習を実施し、生徒の参加を促し、基礎学力の充実と進路実現に取り組んだ。</p> <p>②ビデオによる授業研修やICTを活用した授業の工夫などに取り組み、本校にふさわしい授業の研究・開発をしている。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・手本となる授業を撮影し、職員全体の授業研修会を継続する。また、ICTを活用した授業の研修会を企画する。</p> <p>・90分授業の活用や、言語活動の充実など、効果的な授業展開を共有し、テーマを設定した授業研究を推進する。</p> <p>・生徒のニーズに応じて学習機会の拡大を図る。教科バランスのとれた講座を設置する。</p>

<p>4 各専門学科に応じたキャリア教育を実践するとともに、生徒の生活全般を指導し、自律自尊の人間の育成を目指す。</p>	<p>① 各専門学科ごとの「総合学習」プログラムを計画に沿って実行し、さらに次年度の改善と発展につなげる。</p> <p>② それぞれの学科の特性に対応した「キャリア教育実践プログラム」を深化させた「進路学習シラバス」を実行しながら、生徒のキャリア発達を支援する。</p> <p>③ あいさつの励行、通学時のマナー等基本的な生活習慣が、校内だけでなく広く生活一般において確立されるよう意識啓発を図る。</p> <p>④ 学校行事、学科行事、部活動、生徒活動等幅広い教育活動を展開し、四学科の交流を図るなかで、他者理解、自己肯定感を高め、豊かな人間性、社会性を育む。</p> <p>⑤ 生徒自身が先頭に立ち、校内美化、分別、節電の呼びかけを行うことで、生徒の環境への意識を高める</p>	<p>① 各専門学科において「総合学習」プログラムを計画的に実施できたか。また、今年度の成果を踏まえ次年度に向けた課題の整理と改善の手立てを構築できたか。</p> <p>② 各専門学科において「進路学習シラバス」に基づいたキャリア教育を実施することで、生徒のキャリア発達を支援することができたか。</p> <p>③ 自律自尊の人間育成に向け、基本的な生活習慣の確立のための指導を徹底することで、規範意識の醸成を実現することができたか。</p> <p>④ 豊かな人間性及び社会性の育成に向け、特別活動及び部活動の充実などを通じて学科間の交流を促進することにより、生徒の他者理解や自己肯定感を向上させることができたか。</p> <p>⑤ 生徒の環境保護の意識を向上させるため、主体的に環境保護のための活動に参加するよう指導できたか。</p>	<p>① 「総合的な学習の時間」は、組織的に、計画通りに実施され、自ら考え表現する力の伸長に取り組んだ。</p> <p>② 各学科の特性に応じて「キャリア教育実践プログラム」を展開したが、様々なプログラムが「キャリア教育である」ことを生徒により一層認識させる必要がある。</p> <p>③ 集会やHR・掲示物等を活用し、基本的な生活習慣の確立やモラル、マナーの向上に取り組んだ。しかし、SNSの利用においては不適切な情報発信が見られるので、規範意識の醸成に向けてしっかりと取り組む必要がある。</p> <p>④ 学科間の交流や学校行事などを通じて、他者を理解することの重要性を認識させることができた。</p> <p>⑤ ゴミの分別や校内美化など環境保護の意識付けはできたが、教室の消灯や冷暖房の効率化など節電に向けた取組を、より一層意識させる必要がある。</p>	<p>① 「総合的な学習の時間」の充実に向けて、今年度の取組を検証し、改善と発展につなげる。</p> <p>② 生徒が「キャリア教育」を認識し、職業への結びつきを意識したプログラムを検討する。</p> <p>③ ・時間厳守や挨拶の励行など基本的な生活習慣の確立に向けた取組を継続して行う。 ・SNSの利用などモラルやマナーの向上に向けて啓発する。</p> <p>④ 学科間の交流を充実させ、他者を思いやる心を育むなど豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>⑤ 環境保護の必要性を意識させ、教室の消灯や冷暖房の効率化など節電の推進を継続して行う。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科の特色ある発表会に、学びの成果が表れている。特に理数科の課題研究発表会では、生徒全員が研究発表を行い、卒業後の進路に結びつくのではないかと感じた。 生徒が他の学科の発表会を見ることも「様々な学び」に触れる機会なので計画できないか。 部活動に打ち込んでいる生徒が多く、学校生活に活気がある。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科の特色あるキャリア教育を生徒自身に認識させることで、将来の目標が具体的なものになると思われる。 学科を越えた1年次の混合クラスや体育祭など、学科の枠を越えた交流は、「豊かな人間性」を育む教育となっている。 生徒は、礼節をよくわきまえており高校生らしい活気に溢れている。 部活動の準グランプリ賞に見られるように、運動部・文化部とも活気があり、学校全体がとても良い雰囲気である。 	<p>(学校評価)</p> <p>①各学科に応じた「総合的な学習の時間」が計画通り実施運営され、実効性のある態勢を整えることができた。</p> <p>②各学科の特色に応じた「総合的な学習の時間」の中で、「キャリア教育実践プログラム」は計画的にできた。</p> <p>③来校者に対するあいさつの励行に係る指導の結果として、高い評価を得ている。</p> <p>④・集会やHR、教室掲示物等を活用し、基本的な生活習慣を確立させる取組を進めるとともに、交通安全指導を行うなど生徒のマナーアップに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動だけではなく、近隣の支援学校と協同でふれあいコンサートを実施し、交流を深めることができた。 運動部、文化部併せて7部が全国大会、関東大会に出場を果たし、かながわ部活ドリム準グランプリ賞を受賞することができた。 ⑤清掃については、自発的に校内美化、教室内の整備に取り組む姿勢が見られ、教室の照明・エアコンをこまめに切ることによる節電にも取り組むことができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 節電については、使用しない教室の消灯、冷暖房の効率化をより徹底させ、節約を推進する。 通学時の自転車のマナーや安全確保については、保護者と連携した指導を継続して行う。 SNSの利用モラルの向上に向けて、携帯電話教室を行う。 体育祭など学校行事において、異なる学科との生徒の交流を積極的に取り組む。
---	--	--	---	--	---	---

<p>5 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを行うとともに、専門学科で学んだ成果を地域に還元することの重要性を、生徒に意識啓発する。</p>	<p>① 部活動やコンサート活動、出前授業、また、小・中学校との連携をとおして、生徒が地域住民や異校種の児童・生徒と触れ合う機会を増やし、専門学科で学んだ成果を地域に還元する生徒の意識を啓発する。</p> <p>② HP の掲載内容や更新の迅速性を高める。また、学校説明会をより充実させる。</p> <p>③ オープンスクール及び体験授業の実施体制を一層充実させることにより、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>① 生徒に学習成果を地域に還元することの重要性を認識させるため、地域住民や異校種の児童・生徒と触れ合う機会を十分に提供することで、生徒の意識を向上させることができたか。</p> <p>② 開かれた学校づくりの推進に向け、学校説明会の実施体制やHP の内容の充実を実現することができたか。</p> <p>③ 開かれた学校づくりを推進するため、来校者の視点に立ってオープンスクール及び体験授業の実施体制を充実させることができたか。</p>	<p>① ・「弥栄トリニティ」や「ふれ合いコンサート」「部活動交流」など通じて、専門学科で学んだ成果を地域に還元することができた。</p> <p>② ・本校の特色あふれる教育活動を正確に且つ迅速にHP に掲載でき、様々な情報発信ができた。</p> <p>・学校説明会は計画通りに実施でき、4 学科 5 専攻の特色を広く県民にアピールすることができた。</p> <p>③ ・職員と生徒が連携して、わくわくどきどき理数教室など体験授業やオープンスクールは計画的に実施できた。</p> <p>・公開授業を通じて、本校の授業を見学していただくとともに、寄せられた感想を職員で共有することができた。</p>	<p>① ・小中高の連携に継続して取り組み、専門学科で学んだ知識を地域に還元する。</p> <p>② ・HP に掲載する記事を積極的に提供しよう職員に働きかけ、本校の特色ある教育活動を広く県民に発信する。</p> <p>③ ・様々な交流を通じて、多くの生徒が専門学科で学んだ成果を地域に還元できるよう取り組む。</p> <p>・オープンスクール及び体験授業実施後に寄せられた感想を参考にして、開かれた学校づくりの推進に一層取り組む。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明会や体験授業を通じて、弥栄高校に入学したいと思う中学生が増えている。 HP やマチコミメールにより、学校の情報提供が適切に行われている。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ科、芸術科、国際科、理数科とも、小中学生との交流を通じて専門学科で学んだ知識を還元していることは素晴らしい。教えることが「さらなる学び」につながっている。 弥栄トリニティによる連携は、中学生にとって「高校での学びの意欲」につながっている。弥栄高校に進学したい中学生はとても多い。 	<p>(学校評価)</p> <p>①「弥栄トリニティ」の取組を継続し、弥栄小中高の連携を行った。また、特別支援学校や公民館との交流も計画的にできた。</p> <p>②HP に掲載する記事の提供が迅速に行われ、本校の教育活動を発信することができた。</p> <p>③専門学科で学んだ成果を地域に還元する取組に多くの生徒が参加しているが、まだ生徒会の本部や特定の部活動に偏っている面がある。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の多忙化の中で、外部との連携の内容を精査し。持続可能な取組みとして継続していく。 ホームページをさらに充実させ、本校の特色あふれる教育活動を正確に広報するために、様々な情報をタイムリーにわかりやすく掲載する。 中学生のニーズに応える体験授業や学校説明会の開催方法、内容を引き続き検討する。
<p>6 教職員の資質と能力を高めるとともに、安心し信頼される学校の管理体制を構築し、維持する。</p>	<p>① 安全教育を進め、生徒、職員の防災訓練を徹底する。生徒用の防災マニュアルを整備するとともに、災害時の備蓄を確保する。</p> <p>② キャリア研修、人権研修や事故防止研修など職員研修を推進する。</p>	<p>① 防災教育及び安全教育の充実に向け、生徒用防災マニュアルの整備、防災訓練の充実及び災害時の備蓄の確保を実現することができたか。</p> <p>② 安心し信頼される学校管理体制の整備に向け、一人ひとりの教職員が主体的に各教員研修に取組むことができたか。</p>	<p>① ・実用的な防災マニュアルを作成し、生徒および職員の防災に対する意識を高めることができた。また、職員による東日本大震災の講演会を実施することで災害時の対応について学ぶことができた。</p> <p>・地域の防災訓練に参加し、防災訓練の実態を知ることが出来た。</p> <p>② ・進路指導に係わる各種研修会を年次ごと定期的実施した。</p> <p>・7月、中央支援学校の職員による「人権研修会」を実施した。</p> <p>・11月に「旅行会社の危機管理の現状を知る」研修会を行い、職員の学校管理に対する意識の向上を図った。</p>	<p>① ・実用的な防災マニュアルを作成し、職員・生徒の防災に対する意識を高める。</p> <p>・地域の防災訓練に職員・生徒が参加し、地域への協力体制を検討する。</p> <p>② ・4学科5専攻の個性あふれる生徒の才能を十分に引き出すことができるよう、職員は研修を重ね、教科・生活・進路指導のいずれにおいてもしっかりとした指導に取り組む。</p> <p>③ 人権研修・事故防止研修を計画的に開催し、職員の学校管理体制の意識を高める。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方の意欲ある取組が、生徒にとってプラスに働いている。とても感謝している。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域には高齢者の方がとても多い。いざ災害が発生した場合は、高校生の力が必要になるので協力体制の構築を図って欲しい。 学校の職場がとても忙しいと思われるが、事故不祥事の防止に向けた研修を継続して行って欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <p>①防災マニュアルを、さらに実用的にした教員マニュアルを作成し、教員対象の防災訓練を計画的に実施した。</p> <p>②進路指導に関わる各種教員研修会を実施し、実効性のある職員研修を行うことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループ・学科・年次が抱えている課題を集約して、改善に向けた取組みを行う。 学校の安全管理や事故不祥事防止に向けた研修会において、地域の人材の活用を行う。 入選業務、成績処理において、事故が発生しないよう組織的なチェック体制を機能させる。